

ご遺族追悼のことば

## 追悼のことば

お母ちゃんへ、どこにおるん？もう31年会えてないよ。

私がいる加古川もかなり揺れて、なんや地震か？って思っただけやったけど、私の家は倒れることもなくて、まわりも大きな被害は見えへんかったから、「実家もきっとこれくらいやろうなあ」って思ってしまったことを今でも後悔してるねん。

お昼すぎからテレビに映った神戸の町は、倒れた高速道路、つぶれた家、黒い煙、知ってる神戸とは思われへんかった。すぐに電話したけど、何回かけてもつながらなくて…「お母ちゃん何してるんやろう？」ってちょっとイライラしたりもしたけど、何かあったら避難もしてるって思っててん。

助けに行きたいのに助けに行かれへん時間だけが過ぎていって。実家に行けたときにはもう焼野原やったし、お母ちゃんの姿も見つからず。それでも避難場所や病院なんかも探したんやで。

普段は働き者のお母ちゃんやから悪いことは起きひんって思ってた。そやから31年も行方不明で会えてないなんていまだに信じられへんねん。実家のアパートを何度も掘り起こしてもらったけど、骨の欠片も見つからず遺体もあがらずで、私自身もどうしていいのかわからず31年も経ってしまいそれって短いのかなあ？長いのかなあ？

お母ちゃんと私は「サヨナラのない別れ」。人に「お母さんはご健在ですか」と聞かれる場面でも「どうかなあ？死んでるかも」と答えることがあるねん。そう聞かれるたびにお母ちゃんがこの世にいないという現実をだんだん思

い知らされるようになってきたわ。

お母ちゃん、神戸の震災だけじゃないで。東日本大震災でも能登半島地震でも、家族を失った人、行方がわからんまま今も探し続ける人、心に深い傷を抱えて生きてる人がまだまだたくさんいるねん。

お母ちゃん、震災は揺れがおさまったら終わりじゃないよね？

家族を探し続ける日々があり、今も大切な人に会いたいと思い続ける人がいること、知ってもらいたいよね？また会えるはずやった人と別れなあかんなんて、そんな悲しいことないよね？

私も31年ずっとお母ちゃんに会われへんままやけど、そんな痛みを震災を経験した人たちと共有できたらなあと思ってるねん。みなさんの大切な人の時間を大事にしてほしいよね。

お母ちゃんとの思い出を思い返すたび、当たり前に一緒に過ごせる時間の大切さを改めて知ったよ。

お母ちゃん、親孝行できへんかったけどごめんね。天国にいると思うからそこでゆっくりしてくださいね。

お母ちゃん、ありがとう。

令和8年（2026年）1月17日

佐藤 悅子